生徒が発見！今なぜ学ぶのか？

Chapter 2
特別授業ルポ

立命館宇治高校 × キャリアガイダンス編集部

「教科学習の意味」を発見する特別授業

実況レポート

今学んでいることが将来の自分につながっていることを、生徒自身が発見できる授業を作れないか？　小誌編集部が立命館宇治高校の酒井淳平先生とコラボレーションした特別授業のプログラムと、3月に実践された授業の実況レポートを公開します。

取材・文／長島佳子、
撮影／三宅愛子（グリーンサム）

「学ぶ」と「働く」のつながりをどう意識させるか？

全国の高校でもキャリア教育に力を入れている学校は少なくない。生徒に選択肢を提示するためにさまざまな職業を知らせたり体験させるものであったり、生徒の個性や志向と、大学の学部、さらにその先の職業を結びつける実践は全国に広がっている。「働くこと」についての実践の厚みが増す一方、「学ぶこと」についてはどうか。日々の、この教室での勉強は将来とどうつながっていて、どんな意味があるのか。学ぶことと働くことのつながりをいかに伝えることができるのか。

編集部は、「今、なぜ勉強するのか？ 教科学習は将来どう役立つのか？」を真っ向から生徒に考えさせる授業を作れないかと考えた。授業の設計に当たり、昨年「働くことについて考える」というキャリア教育の公開授業を行い、編集部一同が深く感銘を受けた立命館宇治高校の酒井淳平先生に依頼をした。

立命館宇治高校はCSL（キャリア・サービス・ラーニング）というキャリア教育授業を1年次より週1回、総合的な学習の時間で実施。文部科学省の「普通科高校におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」指定校となっている学校だ。具体的な授業構成は、実際に授業を実践していただく酒井先生と同校の田内雅人先生に作成いただいた。先生方の原案をもとに、数回のディスカッションと修正を重ねた結果、完成したのが今回の授業プログラムである。次ページより、プログラムの全容と、3月中旬に同校で実際に行われた特別授業の実況レポートを紹介する。

共同開発者

立命館宇治高校（京都・私立）

酒井淳平先生
数学科教諭

同校高校1年生普通コース主任、前キャリア教育部長。2013年度よりキャリア教育授業（CSL）を担当し、カリキュラム作りから実践まで行っている。今回の特別授業の指導案を作成。CDA（キャリア・ディベロップメント・アドバイザー）。当日は国語科の田内先生とともに授業を進行。

田内雅人先生
国語科

School Data

1994年創立／IBコース・IMコース・普通コース・文科コース・理科コース／生徒数1071人（男子512人・女子559人）／進路状況（2013年度実績）大学98.6%・短大0%・専門学校0%・就職0.3%・その他1.1%

「なぜ学ぶのか」特別授業プログラム

酒井先生と編集部がコラボレーションした特別授業は、講義形式の授業1時間と、グループワーク1時間の2時間構成とした。各時間の内容を示した指導案と、授業の中で生徒が使用するワークシートをご紹介しよう。

特別授業プログラムの目標

プログラム策定にあたり、酒井先生と編集部が授業の目標とした到達点は以下のとおり。

1. 「なぜ学ぶのか」について、生徒が多様な考え方にふれながら、自分で答えを発見する。
2. 「学ぶことの大切さ、すばらしさ」について、生徒が授業の中で実感する。
3. 誰のために学ぶのか、学んだことを将来にどうつなぐのか、学んでいることをどう役立てるのかについて、他の生徒とディスカッションする中で考えを深める。

＊学ぶ意味はいくつもあるが、意味を多数もっている生徒ほど学びへの高いモチベーションを維持できると思われる。その点から、生徒の「学ぶ意味」を増やすことも授業のねらいになる。
＊各教科を学ぶ意義というのも重要なテーマであるが、キャリアの授業という位置づけを考えて1教科に限定したものにはしない。

指導案

ダウンロード可 ※以下は、酒井先生が実際に作成された指導案の要約です。指導案の実物はページ下のダウンロードサイトから入手いただけます。

1時間目　先生の講義形式+WS（ワークシート）を使用

進行	内容（生徒の活動）	教員の行動	留意点など
導入 5分	●今日のねらいを知る 中学生の悩みに答える（WS記入）	「なぜ勉強するのか？」悩んでいる中学生の悩みにどう答えるか考えさせ、書かせる ⇒予め用意した中学生の悩みの内容を生徒に朗読させる	書いた内容を2人ほどに発表してもらう
展開1 5分	●テーマを自分にひきつける 「なぜ勉強するのか」 1回目の記入（WS）	導入を踏まえて、現時点での考えを記入させる	導入の回答と重なってもよいことを伝える
展開2 10分	●クイズを考える 大人の考えについてのクイズ（WS記入）	「子どもになぜ勉強するのか聞かれたらどう答えますか？」という質問に対する大人たちの回答の1位から3位までを考えさせる（4位と5位は予めWSに書いてある）	
	●クイズの1位の検証 5教科の仕事へのつながりについて、社会人2人の例	クイズの1位は「将来何かの役に立つ」。だが、本当に各教科は将来の役に立つのか、経営コンサルタントとサッカー選手の事例で考える。仕事のおおまかな説明をした上で、生徒の意見を聞いた後に、本人が必要だったと感じている教科と理由について紹介	参考文献：『5教科が仕事につながる　数学の時間』、『5教科が仕事につながる　国語の時間』（ぺりかん社）
	「なぜ勉強するのか」 2回目の記入（WS）	ここまでを踏まえての考えを記入させる	1回目と同じでもよいことを伝える
展開3 15-20分	「なぜ勉強するのか」に対する5人の大人の考えに対するランキング付け。1回目（WS）	誰のものかは伏せて、言葉だけ紹介し、納得させられた順位を付ける。1位と2位は理由も書かせる。1位に選んだものを挙手させて集計。次に、誰の、どんな背景での言葉だったのかを説明する	出典：『ドラゴン桜』、孔子傳、『ではまた明日』西田英史、夜間中学校の卒業式の映像、マララ・ユスフザイさんの国連でのスピーチ映像
展開4 10分	「なぜ勉強するのか」に対する5人の大人の考えに対するランキング付け。2回目（WS）	背景説明を聞いた上で、再度納得させられた順でランキング、理由を書かせる。1位が入れ替わった場合はその理由も書かせる 再度1位について挙手させて集計	
まとめ 3分	「なぜ勉強するのか」 3回目の記入（WS）	1時間目の授業を踏まえての考えと、1時間目の感想を記入させる	

2時間目　グループワークでのディスカッション中心

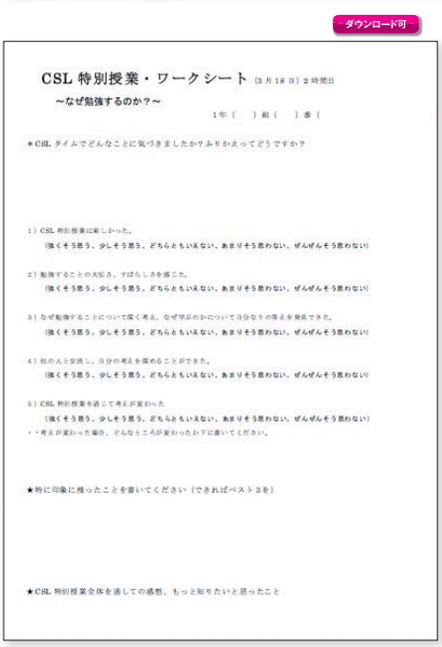
進行	内容（生徒の活動）	教員の行動	留意点など
導入 6分	グループワークのルールを知る	机の配置を変えてグループ分けさせ、発言の仕方、模造紙へのメモのとり方、5つのエチケット（①リラックス、②話をよく聴き対話を楽しむ、③否定せずに受け止める。質問して広げる、④テーマにフォーカス、⑤書く・描く・つなぐ）の説明をする	各テーブルに大人が1人ずつ入るが、大人はあくまで生徒の1人として存在。意見をしたり生徒からの質問には答えない。ラウンドで生徒が移動した際に、前のラウンドでの要点を伝える役割
展開1 12分	ラウンド1 この仕事にこの教科はどう役立つか？（模造紙）	3つの仕事と教科を提示し、それぞれの仕事にそれぞれの教科がどう役に立っているか意見を出し合うことを説明する ・美容師⇒理科　・ゲームクリエーター⇒国語 ・保育士⇒社会	ねらいは「教科」→「職業」の理解
展開2 12分	ラウンド2 この職業に就くにはどんなことを学ぶ必要があるか？（模造紙）	議論する3つの職業を提示し、どれに興味があるか生徒に選ばせる。選んだ職業ごとにグループに分け、席を移動させてから議論をスタートさせる ・ファッションデザイナー　・ホテルマン　・弁護士	ねらいは「教科」←「職業」の理解
展開3 12分	ラウンド3 学んでいることをどう役立てることができるか？役立てたいか？（模造紙）	ラウンド1の席に生徒を戻させる。 自分が①夢に向かって一直線型か、②目の前のことをがんばる型かを考えた上で、学びをどう役立てていくか、それは誰のためなのかを話し合わせる	学びを自分の意義に結びつけて考える
展開4 5分	振り返り	各グループで感想をシェアしあい、グループごとに1人ずつ発表させる	
まとめ 5分+7分	授業のまとめと、WS記入	教員から生徒への期待の言葉を述べ、WSを記入させる（2時間目のWSは授業全体の感想アンケートも兼ねる）	

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス（Vol.402）

特別授業で使用したワークシートなど

2時間目　2時間目の模造紙とWS

2時間目はディスカッション形式の授業で、グループごとにテーブルに模造紙が置かれ、生徒たちは他の生徒が話す内容を模造紙にランダムに記入。関係性があることがらは線でつなぐなど、記述の仕方は自由。授業の最後に振り返りとしてWSに今回の授業での気づきと感想を書く。



ダウンロード可

CSL 特別授業・ワークシート（3月18日）2時間目
～なぜ勉強するのか？～
1年（　）組（　）番（

★CSL タイムでどんなことに気づきましたか？ふりかえってどうですか？

1）CSL 特別授業は楽しかった。
（強くそう思う、少しそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、ぜんぜんそう思わない）

2）勉強することの大切さ、すばらしさを感じた。
（強くそう思う、少しそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、ぜんぜんそう思わない）

3）なぜ勉強することについて深く考え、なぜ学ぶのかについて自分なりの答えを発見できた。
（強くそう思う、少しそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、ぜんぜんそう思わない）

4）他の人と交流し、自分の考えを深めることができた。
（強くそう思う、少しそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、ぜんぜんそう思わない）

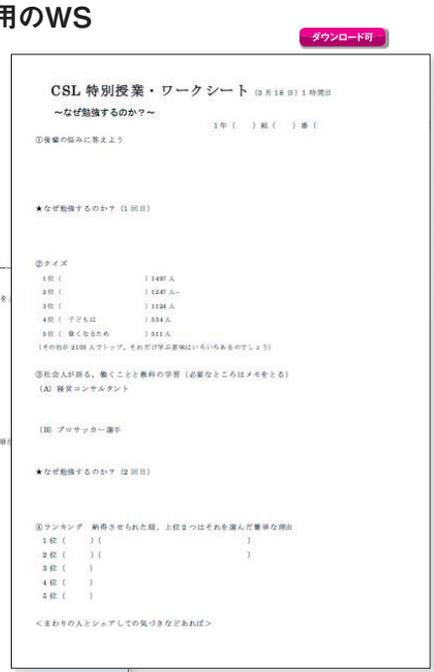
5）CSL 特別授業を通して考えが変わった
（強くそう思う、少しそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、ぜんぜんそう思わない）
・・考えが変わった場合、どんなところが変わったか下に書いてください。

★特に印象に残ったことを書いてください（できればベスト3を）

★CSL 特別授業全体を通しての感想、もっと知りたいと思ったこと

1時間目　1時間目用のWS

1時間目では講義形式の授業の中で、展開ごとに随時WSを使用し生徒に記入させる。記入には時間制限を設定し、その都度タイマーで記入開始・終了を伝える。



ダウンロード可

CSL 特別授業・ワークシート（3月18日）1時間目
～なぜ勉強するのか？～
1年（　）組（　）番（

①後輩の悩みに答えよう

★なぜ勉強するのか？（1回目）

②クイズ
1位（　　）1497人
2位（　　）1247人
3位（　　）1124人
4位（子どもは　　）534人
5位（働くなるため　　）511人
（その他が2100人でトップ。それだけ学ぶ意味はいろいろあるのでしょう）

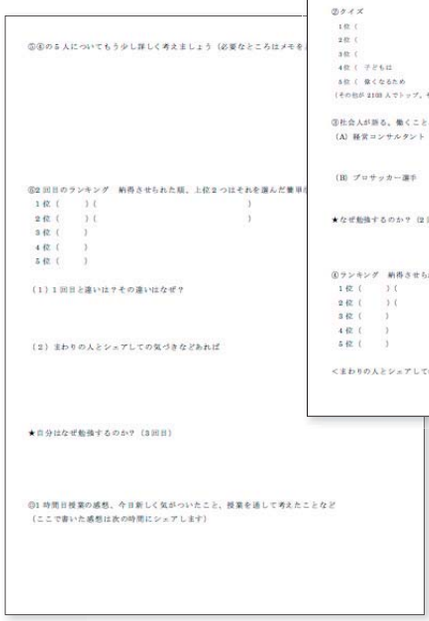
③社会人が語る、働くことと教科の学習（必要なところはメモをとる）
（A）経営コンサルタント

（B）プロサッカー選手

★なぜ勉強するのか？（2回目）

④ランキング　納得させられた順、上位2つはそれを選んだ最単な理由
1位（　　）（　　）
2位（　　）（　　）
3位（　　）
4位（　　）
5位（　　）

＜まわりの人とシェアしての気づきなどあれば＞



⑤④の5人についてもう少し詳しく考えましょう（必要なところはメモを

⑥2回目のランキング　納得させられた順、上位2つはそれを選んだ最単
1位（　）（　　）
2位（　）（　　）
3位（　）
4位（　）
5位（　）

（1）1回目と違いはナその違いはなぜ？

（2）まわりの人とシェアしての気づきなどあれば

★自分はなぜ勉強するのか？（3回目）

⑦1時間目授業の感想、今日新しく気がついたこと、授業を通して考えたことなど
（ここで書いた感想は次の時間にシェアします）

参観者参加型授業を行い、振り返りを行う

1時間目の特徴は、「なぜ勉強するのか？」という質問を3回にわたって生徒が考えることだ。導入で「なぜ勉強しなくてはいけないのか？」という中学生の悩みに答えるワークを取り入れることで、次に続く1回目の問いに答えやすくしている。さらに、社会で活躍する人々が実感している教科と仕事の結びつきや、さまざまな大人たちの勉強する理由についての考えを提示し、共感できる内容とその理由を考えたうえで、自分が学ぶ意味を熟考し、言葉化していく。多様な考え方をつぎつぎにぶつけて生徒に揺さぶりをかけ、同時に考え方の引き出しを増やす方法は酒井先生の「働くことについて考える」の授業を踏襲している。

2時間目では教科と職業の結びつきについて、グループワークで仲間と意見を交わす中で考えを深めていく。同級生の言葉や、日々取り組む教科を材料とすることで「自分にとって」の学びの意味を考え、さらには、将来どのように役立てたいのかまで考えるのがゴールだ。

今回の授業には、他校の先生方にも参観いただき、授業後の座談会では今回の授業をどう活用していきたいかのご意見も伺った。次ページでは、6クラスから集まった33人を対象に行われた授業を実況レポートする。

座談会の様子は22ページで紹介。

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス（Vol.402）

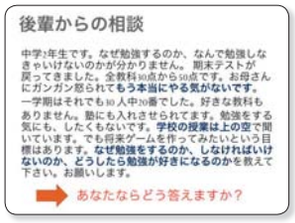
講義（ワークシート）＋WSでさまざまな考え方に触れる

今回の受講者は春休み直前の高校1年生たち。講義では、酒井先生が事前に作成されたスライドや映像を多用し、テンポ良く授業が進められた。WSへの記入時間は、それぞれ1・2分だが、時間を短く区切ることで生徒も集中して取り組む。

1 今日のねらいを知る

中学生の悩みに答える

スライドに映された中学2年生の悩みを読んで、「なぜ勉強しなければいけないか？」の後輩の悩みに答える。（WS記入）



生徒代表がスライドを音読。

隣の生徒と意見をシェア。

よどみなくWSを書く生徒たち。

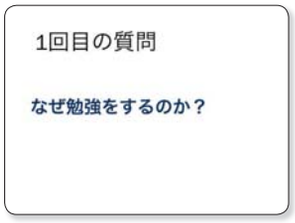
▼生徒たちの回答例

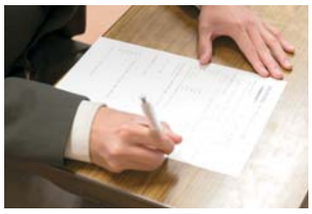
- ●今勉強をしないと、いつか絶対後悔してしまうよ。
- ●今やってる勉強は、将来ゲームをつくるための過程に過ぎないと思って頑張ればいいと思う。
- ●将来の目標があるのだからそれに向かって突き進めばいい。
- ●学校で習う教科とかは将来使わないけど、ゲームなら専門学校の入学には必要だから。
- ●やりたいことをすればいいと思う。勉強ばかりにとらわれすぎてる。
- ●しなくてはならないので頑張るしかない。
- ●ゲーム感覚で勉強するといいかも！
- ●今勉強した方が後々楽になるということを教えてあげたい。
- ●嫌いなら嫌いでいい！

2 テーマを自分にひきつける

「なぜ勉強するのか？」1回目

導入を踏まえて、自分はなぜ勉強するのかをワークシートに記入。（WS記入）





難しい問いだが、導入で一度考えていることによって、ほとんどの生徒がスラスラと書いていた。

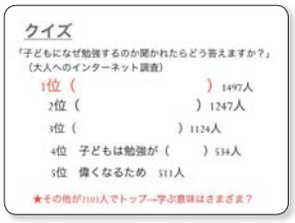
▼生徒たちの回答例

- ●自分のために必要だから。就職するためには必ず必要になってくるから。
- ●個人的にいうなら勉強が好きだから。そして必要とされているから。
- ●自分の将来のため。選択肢が少ない未来は嫌だから。
- ●自分に合ったことを見つけるため
- ●しなければ後々苦しいから。みんなしてるから。
- ●好きなことや興味があることの時間を費やすために勉強する。
- ●どういった道に進むにしても人として最低限身につけておく必要があるから。

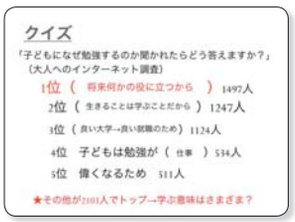
3 クイズを考える

大人が考える勉強の意義

「子どもになぜ勉強するのか聞かれたらどう答えますか？」という質問に対する大人たちの回答を予測する。（WS記入）



正解を出すことが重要ではないので、周りと相談しながら気軽に記入させる。



生徒たちの回答が出そろったところで、正解を表示。

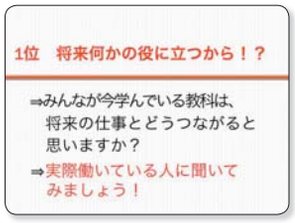
◀生徒たちの反応

1位を聞いて「あ～」
2位を聞いて
「かっこいい～」

4 クイズの1位の検証

5教科→仕事のつながり

クイズの1位は「将来何かの役に立つ」。本当に各教科は将来の役に立つのかについて、2人の社会人（経営コンサルタントとサッカー選手）例を紹介する。



スライドで2人の社会人の仕事の概要を先生が伝える。

この仕事にどんな教科が役立つと思うか、生徒に自由に発言させる。

役立った教科（経営コンサルタント→数学、サッカー選手→国語）とその理由を聞いて、意外そうな表情を見せる生徒たち。

「なぜ学ぶのか」特別授業 実況 1

1時間目

8 3回目の問い

「なぜ勉強するのか？」

1時間目の授業を踏まえ、自分はなぜ勉強するのかを再びワークシートに記入。（WS記入）

1時間目最後の質問

自分はなぜ勉強をするのか？（3回目）

社会に出た先人たちなどが考える、学びの役割や学びの理由を知ったうえで、自分がなぜ学ぶかを考え始めた生徒たち。

▼生徒たちの回答例

- 生きていくため。社会に通用する人間になるため。
- 今の自分に＋αするため。
- 勉強するという幸せなことが与えられているから。自分が幸せだということをわからせるため。
- 自分自身を成長させるため。
- 将来、いろいろなことを経験するため。
- 社会を変えるため。無知・無関心は恥ずかしい。
- スキルを得るため。自分をグレードアップさせるため。
- 世界を変えるため。自分の生活を充実させるため。
- 目標を達成するため。
- 正しい知識を身につけるため。学びを誰かに伝えられるようになるため。
- 自分を変えて、変わった自分が周りの人を変えるため。

生徒たちの学ぶ理由はさらに変化し、「世界」や「周りの人」という言葉が出現した。

7 言葉の背景を知る

学ぶ理由の背景や気持ちの詳細を知る

今度は、5人の大人が誰で、どのような背景で学ぶ理由を語ったかの詳細を伝え、再度納得させられた順にランキングづけ。（WS記入）

スライドや映像を使いながら、それぞれの人について、どんな場面で学ぶ理由を語ったのかを先生たちが詳しく説明。

生徒たちは興味深そうに、先人たちの学ぶ理由について耳を傾ける。

「1回目との違いは?その違いはなぜ?」と先生に問われ考える生徒たち。

▼生徒たちの1位投票数（2回目）

- A 漫画『ドラゴン桜』のセリフ➡9人
- B 孔子傳➡7人
- C 脳腫瘍を患った高校生の言葉➡3人
- D 夜間中学の卒業生の言葉➡3人
- E マララさんの言葉➡8人

1回目に人気がなかった孔子の言葉は意味を知って納得度が上昇。脳腫瘍の高校生の言葉は状況の違いを知ってか人数が減少。

6 先人が学ぶ理由を知る

5人の大人が勉強する理由への順位づけ

「なぜ勉強するのか」に対する5人の大人の考えについて、言葉だけを見せて、納得させられた順にランキングづけ、理由も書く。（WS記入）

ランキング　A～Eを納得順にしよう！

A「社会のルールは頭のいいやつの都合のいいように作られているんだ！」
「だまされたくなかったら、損して負けたくなかったらお前ら勉強しろ！」
B「南山の竹はまっすぐだ。だがこの竹も矢じりをつけ、矢ばねをつければ、まっすぐ飛ぶようになる。学問はそういうものだと思う」
C「日々の生活の充実のため」
D「心の傷を癒すため」
E「未来を作るため、世界を変えるため」

響く言葉は生徒それぞれ。自分の共感度で順位をつけていく。

1位にあげた回答について挙手を促し、みんながどの回答により納得させられたかを共有。

▼生徒たちの1位投票数

- A「社会のルールは頭のいいやつの都合のいいように作られてるんだ！騙されたくなかったら、損して負けたくなかったら、お前ら、勉強しろ！」➡7人
- B「南山の竹はまっすぐだ。だがこの竹も矢じりをつけ、矢ばねをつければまっすぐ飛ぶようになる。学問はそういうものだと思う。」➡2人
- C「日々の生活の充実」➡13人
- D「心の傷を癒す」➡0人
- E「未来を作る、世界を変える」➡6人

この時点ではCの回答が最も納得度が高い結果に。

5 2回目の問い

「なぜ勉強するのか？」

ここまでを踏まえて、自分はなぜ勉強するのかを再びワークシートに記入。（WS記入）

2回目の質問

なぜ勉強をするのか？

1回目と同じ答えでもいいと言われ、再び記入するが、ほとんどの生徒の回答が1回目から変化していた。

▼生徒たちの回答例

- 将来のため、生きていくために重要なツールだから。
- 自分の将来の仕事に何か役に立つかもしれないから。
- 今は役に立たなくても、いつか身近なところで役に立つこともあるかもしれないから。
- 何かの武器を持つため。
- 完璧な自分にするため。基礎を身につけるため。
- 将来就いた仕事を円滑に進めるため。
- コミュニケーションが取れるようになる。
- 人として生きていくためのスキルを身につけることにもなるから。

立命館宇治中学・高等学校のチャールズ・フォックス校長先生も特別授業の様子を興味深く参観。

グループワークで考えを深める

グループワークでは、3つのテーマについて仲間と意見を交わし、誰かの発言について気づきがあったことをテーブル上の模造紙にどんどん書き込んでいく。マインドマップ方式で書き込みは線でつなぐなどして、お互いの考えをまとめていた。

1 導入

グループワークのルールを知る

発言の仕方、模造紙へのメモのとり方、進行方法のエチケットについて説明をする。

スムーズで活発な対話進行のために、先生からルールとエチケットを説明。

CSLタイム　5つのエチケット＋α

①リラックス
②話をよく聴き、対話を楽しむ
③否定しないで受け止める。
　質問して広げる。
④テーマにフォーカス
⑤書く！描く！つなぐ！

＋α　大人は生徒と思うこと！大人に質問するのは禁止！

各グループには1人ずつ、この日参観に来た他校からの先生たちが参加。参観者の先生方には予め、一参加者として存在し、意見をしたり生徒からの質問には答えないようお願い事項が伝えられている。

2 ラウンド 1

「教科」➡「職業」の理解

3つの仕事と教科について、それぞれの仕事にそれぞれの教科がどう役に立っているかを考える。

ラウンド１・テーマ

☆自己紹介＋１時間目の感想を言ってからテーマについて話し合う！

「下の仕事をするときに、この教科はどう役に立ちそう？」（１時間目を思い出しなるべく多く出そう！）

①～③どれについて話し合うかグループで決める

①美容師・・・理科
②ゲームクリエーター・・・国語
③保育士・・・社会

（時間目復習：サッカー選手・・国語など、コンサル・・・数学など

発言するときはオブジェを持つのがルール。発言する相手の話に真剣に耳を傾ける生徒たち。

▼生徒たちの発言例

＜美容師→理科＞
- 染める染料の配合を知るには化学が必要かも。
- カットの角度とか？それは数学か（笑）。
- シャンプーの成分と髪質の関係は理科だね。

＜ゲームクリエーター→国語＞
- ストーリーや原作を考えるのは国語力。
- 売るためにCMなどで惹きつける言葉が大事。
- いろいろなセリフが出てくるから。

＜保育士→社会＞
- 親とのつながりがあるから社会常識が必要。
- 社会のルールを子どもたちに教える立場だから。
- 人とのコミュニケーションに社会科は基本。

友人の発言内容を他の生徒はどんどん模造紙に書き込んでいく。

3 席替え

ディスカッションを盛り上げるためのグループ替え

次のディスカッションテーマに合わせ、興味別にグループを変更する。

次のテーマは職業別に必要となる学びについてとなるため、「ファッションデザイナー」、「ホテルマン」、「弁護士」の中で興味のある職業を選ばせ、職業ごとのグループに再編成。席替えを促す。

メモを取った発言内容に関連性が出てくれば線でつなぐなど、意見が模造紙上でまとまってくる。

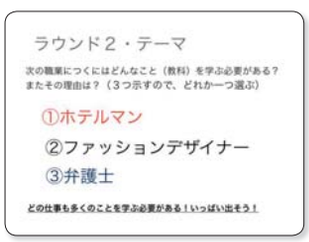
「なぜ学ぶのか」特別授業 実況 2

2時間目

4 ラウンド 2

「教科」←「職業」の理解

3つの職業について、それに就くにはどんなことを学ぶ必要があるかを考える。



まず、席に残っていた参観者の先生から、ラウンド1でその席でどんな議論がされていたかを説明。模造紙は席に置かれていたものを引き続き使用。

ラウンド1に引き続き、生徒たちからは活発な意見が。模造紙は次々に埋められていく。

田内先生も巡回しながら適宜盛り上げ役としてディスカッションに参加。

▼生徒たちの発言例

<ホテルマン>
- 世界中からお客さんが来るから英語。
- 人とつながる仕事で、外国人を理解するためにも社会。
- サービス業なので音楽や美術の知識も必要。

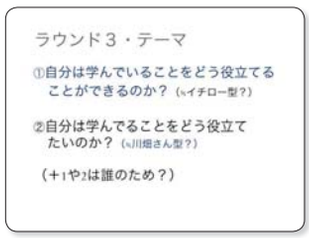
<ファッションデザイナー>
- 形状を考えるから数学。
- 世界で活躍するには英語。
- 人間の体を理解していなければいけないから理科。

<弁護士>
- 順序立てて人を説得する仕事なので国語。
- 論理的な思考には数学も必要。
- 法廷で体を使って伝えるから体育。

5 ラウンド 3

学びと自分のむすびつけ

学んでいることをどう役立てることができるか？役立てたいか？を考える。



自分が①学んでいることをやりたいことのために役立てたいイチロー型（夢に向かって一直線型）か、②学んでいることをどう役立てていくかの川畑さん型（目の前のことを頑張る型）かを表明した上で、これからどうしていくかをそれぞれが考える。

生徒たちは思い思いに、自分の夢を語り始め、そのために何をどう学んでいくか、どんなことをこれから学んでいきたいかなどを伝えていた。聴く側の生徒たちも仲間の夢を聞いて応援の言葉をかけていた。

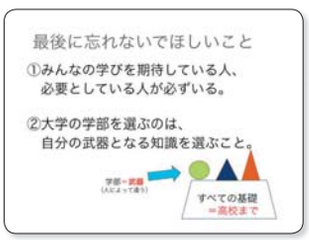
▼生徒たちの発言例
- 東京の大学に行って美術の仕事に就きたいから、今は基礎を大事にしたい。
- 夢はまだ決まっていないから、今はボランティアなどいろんなことに挑戦して、好きなことを見つけたい。
- 青年海外協力隊に行きたい。そのために国際関係の学部に行きたいから英語やボランティアを頑張っているところ。これからはもっと視野を広げていきたい。
- 明確な夢はまだ決まっていないけれど、社会系など文系に進みたくて、外国やNPOに興味があるので、英語や社会を頑張りたい。

どのテーブルもいつの間にか模造紙一面が埋めつくされていた。

6 振り返りとまとめ

グループごとに感想をシェアし、先生からまとめの話

先生から生徒への期待、学部選びの考え方が述べられる、最後に授業全体の感想をアンケート（WS）に記入。



酒井先生から「みんなの学びを期待してる人が必ずいる」、「大学の学部は自分の武器となる知識を身につけるところで、学部選択は武器を選ぶことになる」ことが伝えられる。

2時間の授業で感じたものが多かったのか、生徒たちはこの授業の中でも最も真剣に先生の話に耳を傾けていた。

授業全体の感想や印象に残ったことをWSに記入（回答の抜粋は次ページ参照）。

特別授業を終えて生徒はこう変わった

高校進学時からCSL授業を通じて自分のキャリア形成を考えている立命館宇治高校の生徒たちが、この授業を通して新しい発見はあったのか、考え方がどう変わったのかをアンケートと取材で聞いてみることにした。

他者の意見を知ることで多くの発見を得た生徒多数

「なぜ勉強するのか？」。生徒にとっても教員にとっても根本的な問題であり、答えが一つではない問いに対して、生徒自身が自分のこととして考え、自分なりの答えを見つけることに挑戦したこの授業。生徒は短い時間の中で次から次に新しい考え方に触れた。2500年前の中国の哲学の考えや、学校で学べることが当たり前ではなかった日本の夜間中学校の卒業生や、開発途上国の少女の言葉、同級生の考え。予定調和的な回答は揺さぶられ、書くことが大きく変わった生徒もいる。

授業後に生徒に取ったアンケートに対しても、選択設問もフリーコメントもほぼ肯定的な感想で、特に「仲間と交流することで考えを深めることができた」ということに対し強い肯定感を示し、授業が楽しかったと答えている。1時間目に3回尋ねた「なぜ勉強するのか？」の問いに対しても、ほとんどの生徒が変化を見せ、その一例を左に挙げてみた。「なぜ勉強するのか？」の問いは、生徒たちにとっても知りたかった、考えたかったテーマであることがわかる。我々の予想よりも多くのことを発見し吸収していた、高校生の柔軟性とポテンシャルを感じた2時間であった。

「なぜ勉強するのか？」への回答の変化

A さん

①「自分の夢を叶えるために志望の学部に入りたいのと今勉強すればそれが身になる」

②「将来の自分を作るものだから」

③「世界を知り、視野を広げることが、将来の社会貢献につながっていき、それが誰かの喜びに変わるから」

B さん

①「将来自分の就きたい仕事ができるようになるため。大人になって生きていく中で困らないようにするため」

②「将来役立つ知識を増やすため」

③「今生きている中でできることを精一杯とりくみたいと思うから。勉強することが生きる力にもなっていくと思う」

C 君

①「上に立って人を見下してやりたいから」

②「生きるため、いい生活をするために、偉くなって見下してやりたいから」

③「広い視野で物事をとらえるようになるため」

D 君

①「しなければ後々苦しいし、みんなしてるから」

②「将来何かの役に立つかもしれないから」

③「世界を変えるため。自分の生活を充実させるため」

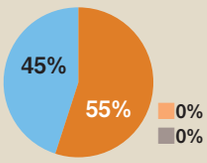
授業で印象に残ったこと、感想など

- 最初はクラスの違う人ばかりで意見なんて言えないと思っていましたが、先生方の心遣いのおかげで積極的に発言することができました。自分の将来の夢を語ったときに応援されてディスカッションがとても楽しかった。
- 弁護士に必要な教科を考えていたときに、友達が「理科」と言い「根拠が大切になってくるから」という意見を出したことに驚いた。
- 自分のことがどんどん言えるワークは楽しい。
- 一つのものをいろいろな方向から見ることによって新しい考え方が発見されるということを学べた。
- 勉強は世界を変えられると知った。
- （授業で出た事例以外に）他の職業の人の話も聞いてみたいと思った。
- これから勉強するのにいいモチベーションがもてるのでこの授業に出てよかった。
- 正直、受験が終わってからあまり勉強していなかったので、これからもっと勉強について知って学びたいと思います。
- 日本に生まれたことの喜びと感謝の気持ちが生まれた。
- 自分の夢がもし叶わなかったとき、どうすればいいのでしょう？

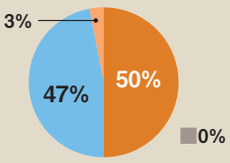
特別授業に対する生徒たちのアンケート結果

■強くそう思う　■少しそう思う　■どちらともいえない　■全然そう思わない

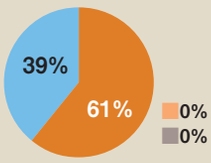
▼なぜ勉強するかについて深く考え、なぜ学ぶのかについて自分なりの答えを発見できた



▼勉強することの大切さ、すばらしさを感じた



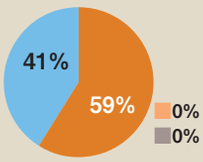
▼CSL特別授業は楽しかった



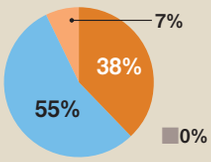
▼印象に残ったこと ベスト3

1位	グループワーク
2位	孔子の言葉
3位	勉強する理由が人それぞれだと言うこと

▼他の人と交流し、自分の考えを深めることができた



▼CSL特別授業を通じて考えが変わった



生徒に聞いた 特別授業の感想

特別授業に参加した立命館宇治高校の5人の生徒に、授業の感想を聞いてみた。

堀田さくらさん

グループワークで、発言した言葉を文字や図示してみると新たな視点を生むことを発見しました。今まで親に、なぜ勉強しなきゃいけないのか尋ねると「したくないならせんでいい」と言われ、将来行きたい学部が決まっているからしたくないわけじゃないんだけど…、と思っていましたが、今日の授業で勉強することは自分の進学や知識のためだけでなく、世のため人のためになるのだと思いました。あらためて、自分の将来の夢にはどの教科のどんな点が必要なのか考えてみようと思い、今勉強していることはすべて役に立つのだと思いました。

鴨奥海斗君

今回の授業で、毎週CSLで学ぶ理由が理解できました。大学選びは偏差値で考えていましたが、大学は通過点に過ぎないことがわかり、何のために自分は行動し、何のために自分はいるのかがわかった気がします。その「何の」を教えてくれるのがこの授業なんだと。それがわかると勉強する意味がわかり、行動に移すことができます。勉強は「世界を良くするため」ということをきれい事だと言う人がいるけれど、自分はきれい事とは思わない。世界を良くすることが自分の勉強の目的ではなくても、気づかないうちにそうなれるといいです。

寺園日向さん

仲間と意見を交流しあうことで、自分だけでは気づけなかったことに気づけて刺激を受け、新鮮でした。中学生の頃、親に勉強の意味を聞いたときに「知識だけでなく努力を覚えるから必要なんだよ」と言われて、それもあると思っていました。今日の1時間目で、先生が何度も「なぜ勉強するのか？」と質問しましたが、説明を聞くにつれ自分の考えが変わっていきました。いろいろな人の勉強する理由を聞いて、境遇によって勉強する意味もさまざまで、「なぜ勉強するか？」の答えはたくさんあり、それを知ることができてすっきりして良かったです。

鈴木孝典君

勉強する意味について今まで深く考えたこともなく、親が「勉強しないと後悔するぞ」と言うので「しないとあかんのや」ぐらいの気持ちでした。今回の授業を受けて、今まで狭い世界でしか周りを見ていなかったけれど、広い世界で見ることの大切さがわかりました。人の意見を聞くことで新しい発見があることも楽しかったです。今日学んだベスト1は「経験」で、過去の経験が未来の自分を作る意義を知りました。どの教科も未来の自分に大切だと思ったので、これからは目標を立てようと意識することができました。

杉村志帆さん

中学受験のときに親に、なぜ勉強しなきゃいけないのか聞いたら、「今やれば高校・大学受験しなくていいし、将来役に立つでしょ」と言われ、そのときはなるほどと思ったのですが、将来何になるのかわからないし、「将来」っていつなんだろうと漠然と疑問に思っていました。今日の授業で見えない未来について考えることができ、勉強は日々の生活で活かして自分の成長のために必要と知ることができました。また、無理矢理させても意味はなく、将来の選択肢を広げるためのスキルとして学ぶと思えば、勉強が楽しく感じるとわかりました。

授業を実施した先生方の感想

酒井先生

生徒たちは問われたがっている

今までも担当授業の中では「なぜ数学を勉強するのか」は伝えていたつもりでしたが、1教科からの視点でした。今回、キャリアガイダンス編集部から声をかけていただき、「なぜ勉強するのか？」の教科を超えた根本的な部分を、私自身改めて考えさせられました。この1年、キャリア教育授業を担当して感じたことは、生徒は学びの意味や、なぜ生きるかという大きな問いを待っているということです。我々大人が問い、ともに考えていくことの大切さを感じています。今日の特別授業は完成形とは思っていませんので、これを機にブラッシュアップさせて来年度のカリキュラムに入れたいと考えています。

田内先生

キャリア学習は生き方の学習と気づいた

キャリア授業を担当した直後は、職業の勉強のことだと思っていましたが、「生き方」の学習なんだと気づいてから私自身の視野が広がりました。今回の特別授業をやってみて、今までの本校のキャリア授業で「なぜ学ぶのか？」のテーマをなぜやってこなかったんだろうと逆に思いました。また、解答がひとつでなければいけないテスト中心のためか、答えがないことに不安を感じてしまう日本の教育の問題点も感じています。本校の国際バカロレアコースでは答えをもたずに自由に議論させています。キャリアの授業も様々な答えをもてるという点で、日本の教育に一石を投じることができると考えています。

「なぜ学ぶのか」
特別授業
座談会

特別授業を振り返って

特別授業を参観された、それぞれの学校で進路指導やキャリア教育に当たっている4校の先生に、授業の感想と、自校で取り入れる場合の活用法についてのお考えをうかがった。参考の上、ぜひみなさんの学校でも応用していただきたい。

出席の先生方

堀川高校（京都・市立）
統括室　室長
橋詰 忍先生

平安女学院高校
（京都・私立）
立命館コース主任
角（かど） 好恵（よしえ）先生

百合学院高校
（兵庫・私立）
進路指導部長
「キャリアの時間」担当
大森順子先生

塔南高校（京都・市立）
生徒指導部
総合学習担当
田中文明先生

＊他に4人の常勤講師の先生方に参観いただいた。

怖くて聞けなかったが絶対聞きたいテーマ

司会　まずは、各校でのキャリア教育の取り組みの紹介と、今日の授業の感想をうかがえますか。

大森先生　本校では15年前くらいから、学びと実社会をつなげるため、企業から出された課題に生徒が取り組むなどのキャリア教育を行ってきました。カトリック系のためか、本校の生徒は「人のために何かする」気持ちが非常に強く、「働くのは何のため？」と聞くと、ほとんどの生徒が「社会貢献のため」と言います。今日の授業の「学ぶのは何のため？」にはどう答えるのか。今まで怖くて聞けなかったテーマですが、一度聞いてみたい、絶対聞かなければと感じました。

橋詰先生　本校もほぼ全員が大学進学を目指します。生徒には「遠い未来と近い未来」、将来と目の前の進路の両方を見据えようというなげかけをしています。「探究基礎」という科目で課題探究学習に取り組みますが、数字で評価される「見える力」と、課題設定・課題解決に取り組む際に求められる「見えない力」の育成を行っています。本校でも「学ぶのは何のため？」とともに、「学びとは何か？」について考えさせる機会を大切にしたいと考えています。

教員側が答えをもたねば向き合えない授業

角先生　2008年から立命館大学に進学する立命館コースを設置しましたが、テストの点数や授業の評定が学部・学科分けに直結してしまうことから、自律的・自発的な学びの意味を考えられていないことが課題で、それを考えさせることが本校のキャリア学習のポイントとなっています。そこで、学部の志望理由書を半年かけてじっくり考えて書かせたり、年1回キャリア講演会を行い、社会とのつながりを意識させるワークも行っています。今日、「なぜ勉強するのか」を3回考えただけで考えが深まっていく授業を見て、このようなことをしていないのが本校の弱みだと感じました。

田中先生　近隣に生活指導が非常に厳しい高校があり、そこを避けてくる生徒が多く、問題も多かったのが本校の実情です。毎日が楽しければいいという生徒が多かったため、5年前に生徒指導改革を行い、一つひとつ改革を進めて、2年前からようやく授業が普通に成立するようになりました。

今日の授業を拝見して「こういうことを高校生ができるんだ」と心が洗われるとともに、本校の生徒にできるのかと。しかし、うちの生徒にこそ「なぜ学ぶのか」を考えさせなければならないと思いました。逆に言えば、その問いに対するしっかりした答えを、我々教員側ももたねばならないと突きつけられた気がしました。

スピーディーであるが思考の内在化も必要？

酒井先生　今日の授業で率直に気になった点はありませんか？

橋詰先生　答えがひとつでない「なぜ学ぶのか」という、普段教師が避けてしまいがちなことを正面から取り組むアプローチがすごいと思い、「なぜ勉強するのか」を3段階に分けて様々な情報によって視点を変えて考えさせる点も工夫がなされていると感じました。ただ、1回ごとの考える時間が短いのが気になりました。もう少し生徒が内在化して省みる時間があってもいいかと思いました。

酒井先生　たしかに扱った内容は少し多かったかもしれません。

田中先生　確かにスピーディーでしたが、生徒たちは自分でよく考えて肉付けして堂々と発表していたのが印象的でした。2時間があっという間で、こんなに時間が短く感じられる授業をしてみたいと思いましたね。教科の授業でもディスカッション型の授業を取り入れたいとも思いました。

私ならこうする！活用案①

百合学院高校（兵庫・私立）
大森順子先生

School Data
1955年創立／普通科／生徒数196人（女子）／進路状況（2013年度実績）・大学78%・短大12%・専門学校6%・その他4%

このような授業を実践してみたい時期とそのねらい

●高校1年生の3学期と中学3年生の1学期（中高一貫のため）なるべく早い時期に考えさせた方がその後の学習意欲の向上になると思うが、生徒間の話し合いが有効なプログラムであるので、話し合いができるお互いの関係ができあがっていた時期の方がよいと思う。「なぜ学ぶのか？」は授業を受けている生徒なら、一度は考えるべきことであり、また授業を行っている教員なら、生徒に考えさせなければいけないことと考える。

実践する場合の授業の構成やWSのアレンジ方法

授業の構成はこのままがよい。1時間目の「後輩の悩みに答えよう」を最初に設定したことにより「なぜ勉強するのか」という問いにまじめに答えようとするし、「クイズ」「社会人が語る、働くことと学習」「ランキングの説明」も適切で、「なぜ勉強するか」を3回、「ランキング」を2回考えさせるのも考えを深めることができる。ただ、本校は女子校のため、社会人の事例のサッカー選手を女子になじみのある職種にした方が良いかもしれない。実施時期を今回と同様に考えており、生徒の発達段階がほぼ同じと思うので、2時間目の議論も同テーマ、同ルールで話し合わせてみたい。

期待される生徒への効果

生徒はいつも学習に対して興味やおもしろさを感じることができるわけではなく、勉強が嫌になったり積極的に取り組むことができない生徒も多い中、「なぜ勉強するのか」ということを考える機会をもち、その答えを出す経験をすることにより、少しでも学習意欲の向上につながると思う。口に出して発表することにより自分の中でも考えがまとまっていき、「決意の表明」になっていくように思われる。その効果は高いのではないだろうか。

角先生　今日の生徒さんは、積極的な発言が多く、ディスカッションでもおもしろくて意外な意見がポンと飛び出す反射神経と短時間で深く考える力があると感心しました。

短時間で変われる生徒たちの力に感銘

大森先生　私は以前にも酒井先生のCSL授業を参観させていただいたことがありますが、そのときよりも生徒同士で自分の意見を言い合えるムードが高まっていたように感じました。4月ではできないムードで、1年間CSL授業を受けてきた今だからできたかもしれませんね。「なぜ勉強するのか」について1回目で「自分のため」と答えた生徒が3回目には「社会や人のため」と答えていて、短時間でこんなに変わる、生徒の力ってすごいと思いました。教師が教え込むより、みんなで話し合う力もすごいですね。

酒井先生　うちの生徒も勉強に前向きな生徒ばかりではありません。「後輩の悩みに答える」という前置きがあったから1回目から書けたのだと思います。後輩になぜ勉強するのかと聞かれたら「せなあかんからや」とは答えられないですよね。

大森先生　あと、ディスカッションの

私ならこうする！活用案②

塔南高校京都・市立
田中文明先生
吉田賢司先生

School Data
1963年創立／普通科・教育みらい科／生徒数754人（男子346人・女子408人）／進路状況（2013年度実績）大学53.7%・短大9.6%・専門学校19.9%・就職5.1%・その他7.8%

このような授業を実践してみたい時期とそのねらい

●1年生の4～5月
高校に入学して間もなく緊張感もあり、春休みを挟んで一度受験からも解放され、再度学習を始めるこの時期が、「なぜ学ぶのか」という課題に対しては一番有効かと思われる。ただ単に教科の授業を進め、テストをし、受験に必要な知識を詰め込むだけでなく、その大前提を問い直せる（田中先生）。
授業に対するモチベーションが大きく向上すると思う。教師から一方的に勉強の必要性を教えられるのではなく自分たち自身で話し合いを通し、勉強とは何かを考える非常に良い機会（吉田先生）。

実践する場合の授業の構成やWSのアレンジ方法

構成は同様で、「ランキングづけ」の事例がやや難しいため、本校の生徒向けに変えてみたい（田中先生）。
本校の場合、生徒が自主的に話し合いを盛り上げるのがまだ難しいので、班活動での話し合いを活発にさせるためには、教員が入って司会をするなどの統制が必要かもしれない。また、WSも自由にメモさせると何を書けばいいかわからない生徒がいると思うので、文章を穴あけにしたり、例を1・2個付け加えるなど、具体的なイメージがわき、自分の意見を書きやすいようにしたい（吉田先生）。

期待される生徒への効果

原点の原点、基本の基本である「なぜ学ぶのか」について、普段なら考えることもほとんどなかったり、あるいは勉強すること自体が嫌いな生徒にとっては、この授業によって、じっくり考えたり、新たに気づいたりすることができると考える（田中先生）。
普段の授業ではどうしても講義が多くなってしまう中、話す、書く、考えるといったコミュニケーション能力を伸ばすことができる非常に良い機会だと思う（吉田先生）。

私ならこうする！活用案③

平安女学院高校（京都・私立）
角 好恵先生

School Data
1948年創立／アグネス総合進学コースI類・エクスパートステップコース・立命館コース幼児教育進学コース／生徒数307人（女子）／進路状況（2013年度実績）大学86%・短大3%・専門学校6%・就職0%・その他5%

このような授業を実践してみたい時期とそのねらい

●中学3年生の1学期、高校1年の3学期、高校2年の2学期
高校3年は毎学期キャリア学習会を行っている。1～3年後の自分と将来の自分を考えるのによい実施期間なので、この従来のキャリア学習の時間のどこかに取り入れてみたい。
点数のないところでの自己肯定感を持てる機会が必要と感じている。本校の現行キャリア学習では将来に対して不安感を覚える生徒もおり、工夫が必要と感じていたので、今回の授業を参考にしたい。

実践する場合の授業の構成やWSのアレンジ方法

本校でのキャリア学習の実施方法と全く異なるので、このままの形、同じWSでの授業に挑戦してみたい。生徒の集中力と積極的な発言を導き出す構成と感じた。

期待される生徒への効果

今回のような授業をすることで、すべての教科は有機的に自分の生き方につながっていくということが理解できるのではないかと考える。

ときに酒井先生が「発言する人はアイテム（棒のようなもの）を持つこと。アイテム持ったら話せるようになる」とおっしゃって、生徒たちは「そんなアホな」と言いつつ持ったら本当にしゃべり出した生徒が多かった（笑）。書くだけでなく人前で口に出すことで、生徒たちも変わっていくようでした。

田中先生　総合学習の時間を苦手とする先生は多いです。生徒の活動が主となる授業では酒井先生、田内先生のように生徒の言葉を待って、引き出し、拾う力が必要ですね。

酒井先生　授業の最後は、学んだことを将来どう役立てたいかを問いました。目標からの逆算だけでなく、学びを積み重ねた先に将来が見えるという考え方もあると思います。夢や目標が早いうちからあって、それに固執している生徒の視野を広げるにはどうしたらいいと思われますか？

橋詰先生　本校は入学時にすでに目標とする職業をもっている生徒が多いため、多種多様な情報を限定的ではなく幅広く受けとり、考えて、自分の進路を判断しているのかを問い続けています。また、本校では3年に進級する際に、一度選んだ自分の学部が本当に適切なのかを自分に問いかけてもらおうと、卒業生を招いて、大学で学んでいることのおもしろさ、つまらなさを率直に語ってもらっています。

酒井先生　1年間CSL授業を担当して、生徒たちがキャリア教育授業を必要としていることを強く感じました。今回はなぜ勉強するのかを生徒に問う大切さを自分も学びました。今日はありがとうございました。

●まとめ●

「過去の経験が未来の自分を作る」「どの教科も未来の自分に大切」「『なぜ勉強するか？』の答えはたくさんある」…授業に参加した生徒たちからはこんな声が聞こえました。学んだことにどんな意味があったのかを実感できるのは働き始めた未来かもしれません。でも、今日の気づきはその未来に向かう道のどこかで、学びに向かう背中を後押ししてくれるはずです。

「なぜ学ぶのか？」に正面から取り組んだ今回の授業、気づきを生むポイントは授業者の関わり方にもあるようです。酒井先生、田内先生は、正解のない問いにともに向かう姿勢で生徒に向き合い、考えを引きだすために待ち、聞き、声を拾っていらっしゃいました。

酒井先生も授業は完成形ではないと仰っていますが、ひな形のひとつとなるのではないでしょうか。参観者の先生方の活用案も参考に、指導案やWSをダウンロードし、学校で活用してください。また、実践しての感想や、改善案のアドバイスもお聞かせいただければ幸いです。

私ならこうする！活用案④

School Data

1908年創立／普通科・人間探究科・自然探究科／生徒数753人(男子442人・女子311人)／進路状況(2013年度実績)大学65.0%・短大0.0%・専門学校2.8%・就職0.0%・その他32.2%

堀川高校京都・市立
橋詰 忍先生

このような授業を実践してみたい時期とそのねらい

●1年生の4月
義務教育を終えた中学生が自己の選択により高校生となり、1段階上のステージに移行する期間で、「学び」のスタイルも変わらなければならない時期。高校生としての「学び」に対する心構えと、質と量に関する知的負荷をどのように自らに課すのか、それによってどんな力を培うことができるのか、社会とどうつながるのかなどを、生徒に考えさせ理解させるための指導の中で実践したい。
人生のどのステージにおいても「学び」について考えることは必要であり、特に高校生という好奇心旺盛で吸収力の高い時期に、今回のようなテーマに向き合うことは重要であると考える。

実践する場合の授業の構成やWSのアレンジ方法

本校では「受けとる力、考える力、判断する力、表現する力」の4つの力を大切にし、すべての教育活動を通じて育成しようとしている。その観点から、今回の授業の1時間目の展開がややスピーディーと感じたため、3回尋ねた「なぜ勉強するのか？」を2回に絞り、生徒自身のフィルターを素通りさせないようじっくり問いに向き合わせてみたい。1時間目も講義形式ではなく、即興で意見交流・ディスカッションさせ、グループごとに生徒代表が発表など、生徒自らが授業を創り、主体的な取り組みとすることも可能かと思う。
WSでは、1時間目の2回目のランキングを書かせる際に「1回目との違いは？その違いはなぜ？」の問いかけに関心した。自分で自身の変化に気づかせることは自分をメタ認知することを促す点ですばらしいと思う。

期待される生徒への効果

さまざまな教育活動の中で「用意されている答え」のない「問い」について考えさせる仕掛けを与え、生徒に受けとらせて判断させ、その根拠などを交流させるという取り組みはこれからも必要であろうと思う。大きく言えば「生きる」力につながる活動ではないだろうか。